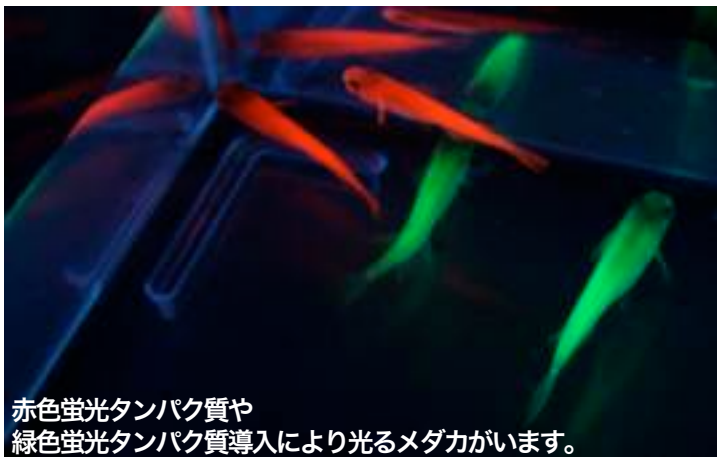


松田 勝 准教授が平成20年度日本農学進歩賞を受賞

宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センターの専任教員である松田勝准教授が平成20年度日本農学進歩賞を受賞しました。受賞対象の研究は、「メダカにおける性決定遺伝子の同定と遺伝的性判別手法の開発」です。この賞は、人類と多様な生態系が永続的に共生するための基盤である農林水産業およびその関連産業の発展に資するために、農学の進歩に顕著な貢献をした者を顕彰することを趣旨としています。授賞式は、平成20年11月25日に東京大学農学部弥生講堂で行われる予定です。

さらに詳しい解説を当センターのHPに掲載しています。

<http://c-bio.mine.utsunomiya-u.ac.jp/index.php?PR2008-8>



赤色蛍光タンパク質や
緑色蛍光タンパク質導入により光るメダカがいます。

↑ 緑色蛍光タンパク質(GFP)の発見により、
下村脩博士は今年ノーベル化学賞を受賞しました。

シンポジウム「バイオクラスターの形成と技術開発」のご案内

竹利用の現状と可能性

平成20年11月18日(火) 16時～ 宇都宮大学農学棟 3302教室 世話人：小林 幹夫
内容：「最近の竹産業事情と遺伝子の夢」 小林 幹夫 (宇都宮大学農学部 教授)
「竹を生かす～その栽培から利用まで～」 柏木 治次 (富士竹類植物園 事業本部長)
「クマ笹にかける夢～その新しい可能性をとおして～」 大泉 高明 ((株)大和生物研究所 代表取締役社長)

栄養管理による鶏卵卵殻強度の改善

平成20年12月15日(月) 16時～ 宇都宮大学農学棟 3101教室 世話人：菅原 邦生
内容：「日本の養鶏産業の変遷」 菅原 邦生 (宇都宮大学農学部教授)
「養鶏場における卵生産システムと卵の品質」 川鍋 輝一郎 ((有)磯ヶ谷養鶏園 常務取締役)
「卵殻形成と飼料成分」 後藤 尚也 (日本配合飼料株式会社畜産資料開発センター中央研究所長)

台湾産タナゴ類の調査研究からミヤコタナゴの生息環境の保全を考える

平成20年12月20日(土) 13時～16時 宇都宮大学教育学部 2101教室 世話人：上田 高嘉
内容：日台共同研究の概要 (上田高嘉・宇大教育)、タナゴ類の現状と保全 (北村淳一・観音崎自然博物館)、アブラボテ属 (*Tanakia*) 内の類縁関係 (松田勝・宇大バイオ)、*Tanakia himantegus complex* の形態に基づく分類 (新井良一・東大総合研究博物館)、アブラボテ属 (*Tanakia*) の染色体について (上田高嘉・宇大教育)、ヒマンテグスの生物地理 (Chia-Hao Chang・Academia Sinica, 台湾)、台湾産タナゴ類の遺伝的多様性 (久保田仁志・栃木県水産試験場)、台湾産ヒマンテグスと栃木県産ミヤコタナゴの生息環境の比較 (酒井忠幸・栃木県水産試験場)、千葉県におけるミヤコタナゴの保全について (石鍋壽寛・観音崎自然博物館)

【本件に関する問い合わせ先】

宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター
広報担当 辰口 有紀 (たつぐち ゆき)

Tel: 028-649-5527
Fax: 028-649-8651
E-mail: c-bio@cc.utsunomiya-u.ac.jp